



わらび座で秋田の文化を 世界に発信

〔秋田市観光クチコミ大使〕

(株)佐々木常夫マネージメント・リサーチ 代表取締役

さ さ き つね お
佐々木 常 夫 氏

私は最近になって仕事術や働き方についての本を出版したおかげで全国各地で講演する機会に恵まれている。

秋田の出身ということもあって、秋田県からはほぼすべての市から招かれたがそのときはその土地に泊まり街並みや名所を回るようにしている。

この歳になって改めてふるさと再発見である。

男鹿のなまはげ館、真山伝承館、横手の増田の内蔵、十和田湖など秋田にはいろいろ名所はあるが角館に行ったとき訪れた武家屋敷や温泉には強い印象を持った。

ここならおそらく多くの観光客が来ているだろうと思い県の観光統計を見たらやはり1位は秋田市で年間428万人だが、次は仙北市で300万人であった。

秋田への観光客数は全国的に見て少ないがそれは遠い(不便)ということも影響しているのかもしれない。

新幹線こまちは盛岡市までは2時間10分だが秋田市までは3時間45分かかる(角館までは3時間)。

東北新幹線は盛岡までは320キロで走っているものの秋田に入ると130キロなので新幹線とはいえないほどのろい。

盛岡市や仙北市に来た人をなんとか秋田市や男鹿市まで足を運ばせられないのかと思ったりする。

私は首都圏などにおいて秋田に関心を持ち秋田の発展に貢献したいという人たちの会「秋田産業サポータークラブ」で活動している。

この会には7つのワーキンググループがあるが、その中に、文化・教育・観光の面から秋田を支援しようという「夢作りWG」がある。ここで昨年角館に近い秋田芸術村「わらび座」を強化することで秋田を支援しようという議論を始めている。

わらび座は1953年から仙北市で事業を始め、劇団劇場経営のほか温泉ホテル事業、地ビール(田沢湖ビール)の製造販売など多角的な経営を行っている。

劇団員は250名、年間25万人の観客を動員すると

いう舞台芸術活動をもとに今では複合化して大きな産業にまで高めさせている企業である。これにもっと知恵を入れることで加速させようということである。

私は2年前にわらび座を訪れ山川社長と面談したが氏のいう「わらび座をヒューマンビジネス産業として世界に挑戦する」「秋田のローカル文化を世界規模に高めたい」という熱い思いに心を打たれた。

山川社長の考えは「わらび座がコンテンツの組み合わせで儲かる仕組みをつくりたい。コンテンツの組み合わせとは文化芸術(アート)と教育、文化芸術と医療、文化芸術と観光の三つ」である。

仙北市も前向きでわらび座との包括連携協定を結び「小さな国際文化都市～市民が創る誇りある町」の実現に向けて双方が協力し仙北市の文化振興、国際交流、移住定住、観光振興などにつなげていこうとしている。

このコンテンツの組み合わせをどう具体化して文化事業を強い産業に高めていくのか、構想は大きく課題は多いがなんとか多くの人の知恵を結集し、わらび座と仙北市、ひいては秋田の発展につなげたいものだ。

■略歴

1944年 秋田市生まれ 秋田高校卒 東大経済学部卒 東レ入社

自閉症の長男と肝臓病とうつ病の妻の介護をしながら東レ経営研究所社長に

「部下を定時に帰す仕事術」「働く君に贈る25の言葉」などを出版

2011年ビジネス書最優秀著者賞を受賞

内閣府の男女共同参画会議議員、経団連理事、大阪大学客員教授などを務めた

2010年より現職